

Planning and CoordinationMACHINE TIME EXECUTIONREPORT (2001-3-2 CYCLE)

Experimental Group	T 4 8 8 (神戸大学)	Reporter	原俊雄 (神戸大学)
Scheduled Period And Shift	2001.11.3,8am~.5,8am 6,5pm~12,9am,20sifts	Main, Sub, Para	Main
Experimenters 原俊雄、青木茂樹、鈴木州、西山正吾、野田俊介、須賀陽介、中田太志			
<p>SUMMARY OF EXECUTION AND RESULTS</p> <p>K 2 K 実験のためのファイバー読みだし散乱体入りシンチレーター飛跡検出器のテスト器に、π 2 ビームラインにて、0.4GeV/cから1.6GeV/cのビームを照射して、飛跡検出器としての性能を調べた。</p> <p>散乱体濃度を濃くしていくと、粒子通過位置近くのファイバーにシンチレーション光が集まり、粒子通過位置を特定する性能が上がることを確かめられた。粒子位置特定の位置分解能は、最大濃度（濃度50）のとき、0.24 ± 0.01 cmであり、これはK 2 K 実験装置増強の飛跡検出器として十分な性能であることが確かめられた。</p>			
<p>EXECUTED MACHINE TIME, BEAM CONDITION, DOWN TIME etc</p> <p>実行マシンタイム 1 2 4 時間</p> <p>ビームコンディション 良好</p> <p>ダウンタイム. 3 6 時間</p>			
<p>COMMENTS</p> <p>運動量を決める電磁石の内、一つの電流が設定値まで上がりきらない。</p>			